



MINATO TOKYO

Bulletin

みなと
ユネスコ

MINATO UNESCO ASSOCIATION NEWS & CALENDAR

ISSUED BY/MINATO UNESCO ASSN. 16-3, SHIMBASHI 3-CHOME MINATO-KU TOKYO 105-0004/HIROSHI NAGANO PRES.
発行所/港ユネスコ協会 〒105-0004 東京都港区新橋3-16-3 TEL・FAX 03(3434)2233 発行人/永野博
Mail:info@minatounesco.jp http://minato-unesco.jp

2017年3月1日発行 第147号

目次	
P1 巻頭言	P6-7 オーストリア共和国大使館訪問
P2-3 講演会「世界遺産 パーミヤンの昔と今」	P7 書道体験教室 テンプル大学ジャパンキャンパス
P4 文化体験教室 茶道、書道	P8 事務局便り
P5 新年懇親会	P8 編集後記

私のささやかな国際交流



2016年5月、旅仲間四人で中部イタリア（フィレンツェ～アレツォ～モンテルキ～ペルージャ～アッジバ～アノーナ等）の街歩きを楽しみました。仲間の一人がピエロ・デラ・フランチェスカ

（15世紀のイタリアルネッサンスの画家）の絵に憧れて、今回は是非！と提案し、皆も「目的のある旅」に賛成し即、実行となりました。旅の2日目はフィレンツェからボローニャに日帰り足で足を延ばし、11世紀に創立されたヨーロッパ最古のボローニャ大学の解剖学の階段教室や当時の蔵書に歴史の重みに感動しました。3日目からいよいよ目的の絵画巡りです。アレツォのサン・フランチェスコ聖堂の壁画「聖十字架伝説」はソロモンとシバの女王も登場する大作で見応え十分でした。翌日、アレツォから市バスで小村のモンテルキ迄行く予定のところ停留所を見逃し、かなり遠くまで乗り越し、やむなくタクシー利用となりました。小さな美術館の中、正面に飾られた「出産の聖母」それは美しいブルーの衣装の聖母に二人の天使が寄り添う絵に、皆、心を打たれたまま美術館を出ました。丘の上にある美術館からは帰りのバス通りすら見えません。そこへ犬を連れて散歩中の上品な婦人が通りかかり、思わず習いたてのイタリア語で道を尋ねました。どうにか通じてバス停まで一緒に歩いて頂きました。道すがら日本に旅されたこと、デラ・フランチェスカの絵は村の誇りである等笑顔で語られました。彼女の故郷への愛着が伝わりました。バス停に着くと小さな

副会長 奥村和子

雑貨屋がありました。店のマダムに行先を伝え、心配げに時間をチェックして下さり、バスが到着する迄そばに居て下さいました。行きかう人も僅かな小さな村で大きな幸せに出会いました。

今迄もほぼ個人旅行のため、訪問国では色々な方に助けられてきました。港ユネスコ協会で志している国際交流とは程遠いかもしれませんが、日本からの観光客への「優しさ」は自然に出るもので、感謝の気持ちで一杯です。私たちも日本で困っている旅行者にお会いしたら親切にする事を心掛けています。それがお礼につながると話しています。

全く海外旅行に関心の無かった私がこうして何度も旅行に行くきっかけは、初めて経験した主人の赴任先の南アフリカ共和国での二年弱の生活体験かも知れません。当時はアパルトヘイト政策時代であり、学校で習った知識を遥かに超える衝撃がありました。日本で得た情報と現地での実情がいかに異なるか、そして時折、イエローとして人種差別を膚で感じたものです。そこから私は国際交流への関心が深まった気がします。

常に語られる「百聞は一見に如かず」の言葉通り実体験は本当に貴重なものと思っています。旅をする度に色々体験し、感動を重ねてきました。そして旅先で戴く親切はそれにもまして心に蓄積されてきました。今後も「見て！感じて！知る！」をモットーに旅をしていきたいと思っています。

日時 12 月 14 日 (水) 18 : 30 ~ 20 : 30

会場 港区立生涯学習センター 305 室

テーマ : アフガニスタンの世界遺産 ~ バーマヤンの昔と今 ~

講師 前田耕作氏 アフガニスタン文化研究所所長



講師プロフィール

東京藝術大学特別顧問、
文化遺産国際協力コンソーシアム副会長
平山郁夫シルクロード美術館評議員、
和光大学名誉教授
専門はアジア文化・思想史。
バーミヤン仏教遺跡を中心にしたアフガニスタン
文化遺産の保存事業に長年携わる。
著書に『アフガニスタンを想う』(明石書店)など多数。



講演内容

長く戦火のなかにあったアフガニスタンも、様々なかたちでの強力な国際支援によって着実に戦後復興の道歩んでいます。

アフガニスタンが世界に誇る仏教遺跡バーミヤンでは平和が守り抜かれ、日本が力を入れる遺跡の保存修復の作業も着実に進んでいます。

平和の礎は現地の人びとの地道な協働によって初めて築かれるのだと思います。

映像をまじえ、バーミヤン遺跡の昔と今を語っていただきました。

アフガニスタンは中央アジアのタジキスタン、ウズベキスタン、トルクメニスタン、イラン、パキスタンに囲まれている。バーミヤンは首都カブールから徒歩で約一日、パミールから続く、ヒンズークシュ山脈の谷あい、2500mの高地にある。

昔のバーミヤンについては、中国の玄奘の「大唐西域記」に記録されている。

玄奘は 627 あるいは 630 年~645 年にかけて、法を求めてインド、ガンダーラへ。帰国して上記にまとめた。なお三蔵とは、仏教の学問的研究の三つ、経蔵、律蔵、論蔵。これを帰国後、研究、修得したので玄奘三蔵と呼ばれるようになった。

「大唐西域記」(以下の「」内はこの記による)には、バーミヤンは「雪山の中にある」。
北に大雪山(ヒンズークシュ山脈)、南に雪山があり、この二つの大山脈に挟まれた東西に細長くのびる溪谷がバーミヤンである。「伽藍は数十か所、僧徒は数千人」おり「小乗説出世部」(小乗二十部の一つ)を学んでいた。バーミヤンの人々は、古くからの信仰を保ちながら国家宗教としての仏教をも深く敬っていたようだ。

西大仏については「高さ百四十、五十尺の石造りの立像であり、金色に輝き、宝飾がきらきらしていた」。現在、西大仏の高さは 55m なので、ほぼ近い。礫岩の岩壁から全身が彫り出され、その上に土の下塗りをし、衣の線を作り、さらにその上に石膏を塗って、最後に色彩で仕上げたようだ。「宝飾がきらきらしていた」は大仏が



つけていた装身具のことか、陽の光のあたり方でそう見えたのか、はっきりしないが、彩り美しい大仏であったろうと思われる。

東大仏は「百尺余（38m）で真鍮の作り」、大像をいっきに鑄造するのは不可能なので、これは玄奘の誤解だったと考えられている。大仏頭上の「天神」。東大仏の頭上には、すばらしい壁画が描かれていた。

玄奘は壁画については記していないが、ここを通る交易商人たちが祈っていた「天神」があったと書いている。四頭の翼のある白馬が曳く二輪戦車の上に立ち、マントをひるがえして天空を駆けている神。

バーミヤンでは中央アジアやイランで古くから崇拝されてきたミスラ太陽神であったと考えられる。背景の蒼空は青色（ラピス・ラズリ）で塗りこまれている。東西の側壁には帯状に行列する人物、おそらく寄進した王侯、貴族とその家族。その下には儀式に参列する高官たちの姿がある。



2001 年春、内戦の末期、大仏は東西とも破壊された。

破壊後、一年足らずでタリバン政権が崩壊。2002 年にはユネスコとアフガニスタンで文化遺産の保護修復が話し合われた。2003 年から日本政府からユネスコに拠出された基金を使って、日本は石窟の壁画の修復、ドイツは破壊された東西両大仏の保全、イタリアは大仏の仏龕の崩壊を防止する作業を受け持っている。

東大仏の身体部から布に包まれた花模様のある円形の金属板と経典の破片、それに仏陀の身骨に見立てられた泥玉と菩提樹の葉が発見された。かつて大仏の衣の中に、そっと埋め込まれた経文の一部であると思われる。いわゆる埋蔵経である。大仏の右肘の付け根にあたる部分にも、三色の布の袋が埋め込まれていた。未開封の胎内経であった。

壁画片からは、わずかな試料が採取され、顔料の分析がおこなわれた。フレスコ技法（石灰を下地）とされていたものが、セッコ技法（練り土を下地）であった。またヨーロッパでは 11 世紀にはいつてからの油絵具を、7 世紀にはこの地域で使われていたことがわかり研究者たちを驚かせた。これらは皮肉なことに、破壊されてしまったことである。



アフガニスタンの文化財が、博物館からの略奪や遺跡からの盗掘により海外へ流出した。それらを平山郁夫画伯が『文化財難民』として扱うように、ユネスコ総会に提案し、認められた。

日本でも救済・保護活動が始まり、アフガニスタン情勢が落ち着いたら母国に戻すという道筋がつけられた。一部は東京藝術大学で修復され、2016 年末には戻すことができた。

戦後、廃墟にちかいカブール博物館の入口には、次のことばが掲げられていた。

「文化がまだ生き残っているとすれば、国もまた生き残れよう」

「平和は人の心の内にこそ宿る」

前田先生の言葉の端々には、貴重な文化財をいかに守り伝えていくかという熱い思いがあふれておられた。

珍しい映像とお話にひきこまれ、記録がおろそかになったことをお許しいただきたい。また、カラテペ遺跡で発掘調査を行っていた加藤九祚（きゅぞう）氏が 94 歳で亡くなられた話があった。私事ですが、ユーラシアへの興味を深めるきっかけの一つは加藤氏の本からだった。もう一度、読みなおしたいと思う。

参考資料：「玄奘三蔵、シルクロードを行く」 前田耕作（岩波新書）

「アフガニスタン流出文化財報告書」東京藝術大学特別企画展実行委員会

（国際学術文化委員会 常任理事 磯部豊子）

茶の湯体験教室

日時 2016年11月26日(土) 13:30~16:00

会場 港区立生涯学習センター203号室

講師 松村 宗幸先生(裏千家)

- 内容 ①茶の湯の歴史の説明
②お辞儀・畳の歩き方の練習
③講師によるデモンストレーション
④参加者各自でお点前の体験
⑤参加者同士の自己紹介



参加者からの感想(アンケート)

- *お茶一杯たてるにも色々なステップがあるのが分かり、興味深かった。
- *講義も大変わかりやすく、日本文化に触れる事が出来た。
- *非常に興味深く、日本の伝統が好きになった。
- *中国の茶道と違うことが分かり面白かった。



参加者 20名 (外国人 インドネシア、タイ、中国、フィリピン)
通訳は、田部揆一郎監事にご協力くださいました。

担当者からのコメント

お天気にも恵まれて、参加者同士和気あいあいの雰囲気の中、楽しく過ごす事が出来ました。松村先生のご指導の賜物と感謝いたします。
(文化体験教室委員会担当常任理事 平方一代)

書道体験教室

日時 2016年12月3日(土) 13:30~16:00

会場 港区立生涯学習センター304号室

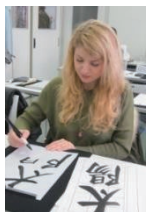
講師 金田 翠夢先生(毎日書道展会員)

- 内容 ①書道の歴史や墨、硯、筆、半紙などの説明
②手本を見ながらの練習
③色紙に好きな字を清書する

参加者 21名 (外国人インドネシア、タイ、フィリピン、ルーマニア)

参加者からの感想(アンケート)

- *お正月なので(年賀状の時期に)役に立った。
- *難しい。もっと思い切り書けるようになりたい。
- *楽しかったのでこれからも習いたいと思いました。
- *やさしい字ほど難しかったです。



担当者からのコメント

外国の方々も楽しまれ、先生のご指導のもと自分の作品に赤い印(らっかん)を押して頂き、笑顔で記念写真に納まっていっていました。皆さまとても喜んでおられたのが印象的でした。

(文化体験教室委員会委員長 笠原正子)

2017 年 新年会員懇親会

日 時 2017 年 1 月 11 日 (水) 12:00~14:30

会 場 NEC 三田ハウス 芝倶楽部

新年の会員親睦の会を田町駅近くの「NEC 芝倶楽部」にて開催。会員とゲストを含め 33 名の皆さまと共に、落ち着いたある立派な会場で新年にふさわしく楽しい会となりました。

永野 博会長より、「世界の平和の為、そしてオリンピックへ向けての一層の国際化の中、皆さんと共にユネスコ精神を語り継いでいきましょう」とご挨拶を頂き、つづいて松本洋 副会長の乾杯の音頭で始まりました。

今年は、東京外国語大学の学生さんによる「魅惑のインドネシア舞踊」をとおしてアジアの文化の一端に触れることがテーマ。

大学の部活動「インドネシア舞踊部」でご活躍中の、太田千晴さん(タイ語専攻)、高橋里佐子さん(マレーシア語専攻)、池田安那さん(スペイン語専攻)、遠藤美佳さん(イタリア語専攻)の4名の学生さんがご参加ご協力下さり、素晴らしい踊りを披露してくださいました。

衣装もメイクも本場そのままの魅惑の踊りでした。

踊りは、①バリ島の“スカルジャガット 歓迎の踊り”

②ジャワ島の“バヤンカリ 女戦士の訓練の勇ましい様子の踊り”



「インドネシアは、13000 以上の島々から成り立ち“赤道にかかるエメラルドの首飾り”とも呼ばれるほど美しく、多様な自然と文化に恵まれています。

その中でバリ島、ジャワ島、スラウェシ島、などの踊りを学び、様々な魅力、多様性を伝えたい! という思いで活動しています」と説明がありました。



委員会担当の友金 守理事が「人は出会うことによって、新しい発見があり、それによって刺激し、刺激されて成長する生き物だ」と常々口にされている言葉を根底に、前年度から「世界の芸能・文化と学生さんとの交流」をテーマにして進めています。

今年も昨年同様に、広い人脈をお持ちの友金理事によるところ大の会となり、イベントゲストの招聘、そして会場選定にとご尽力いただきました。



(会員開発委員会担当常任理事 小林敬幸)

オーストリア共和国 大使館訪問

日時 2017年2月14日(火) 13:00~14:00

場所 オーストリア大使館(港区元麻布)



会員と家族の22名で、元麻布にあるオーストリア共和国大使館を訪問させていただきました。近くには暗闇坂、大黒坂、鳥居坂など、江戸の情緒を名前で残す、お屋敷、商店、神社仏閣の街です。

昨年7月の第1回国際理解講演会で、ウィーン留学経験者の中島章博氏(指揮者かつ建築家)に講師をお願いしたことから、ご縁ができ、今回の大使館訪問が実現しました。

文化担当の曾我晶子氏から、オーストリア共和国に関して、ご説明いただきました。曾我氏は、オペラ・展示会・映画など幅広いオーストリア・アーティストの来日による文化交流をご担当されています。

お話の概要は次のとおりです。

<オーストリア共和国とは> ヨーロッパの真ん中に位置し、北海道くらいの広さ。アルプスに囲まれながら東西に長い国土は、長い歴史と気候環境の中、様々な文化を生み出した。海がなく8か国に接する。接する国境線が一番長い国はドイツ。



公用語はドイツ語。ローマ帝国の時代からの歴史があり、バーレンベルグ家の支配、その後ハプスブルグ家の支配でヨーロッパのほとんどを網羅する大帝國となる。

近世では、1915年の第一次世界大戦、1918年の敗戦を経て今日の国土の広さになり、その後ドイツナチスの支配下で第二次世界大戦に敗戦。1955年に永世中立国を宣言、1995年にEU欧州連合に加盟。現在は連邦共和国制の国家となって、大統領を戴いている。

<世界的に著名な人物> 科学者のフロイト、自動車のポルシェ、物理学者のシュレジンガー、「夜と霧」の著者・心理学者ヴィクトール・フランクル、心理学者のアルフレッド・アドラー、経済学者のピーター・ドラッカー、女性初のノーベル平和賞受賞・小説家のベルタ・フォン・ズットナー、...

<音楽の国> モーツァルト、ハイドンは有名。他にはドイツの人だが、ウィーンで活躍した音楽家ブラームス、ベートーベンも有名。ウィーン少年合唱団は4つのグループがあり交替で毎年来日、どちらにも日本人が一人二人在籍している。ウィーンフィルハーモニーオーケストラも毎年来日している。が、今年はサントリーホールの改装の年のため残念ながら来日無し。

<スポーツ> 明治時代に日本にスキーを伝えたテオドール・エドラー・フォン・レルヒは有名。国民的スポーツはスキー。1956年のイタリア冬期五輪で初の3冠王となり、後に俳優となったトニーザイラーは世界中で人気者になり、時代のヒーローであった。

<味> ヨーロッパの味の交流点。有名なのが仔牛のカツレツ「ウイナーシュニッツェル」。水が良いのでコーヒー。週末はのんびりお気に入りのカフェで過ごすのが楽しみ。ホテルザッハの名物菓子チョコレートケーキの「ザッハトルテ」の杏のジャムも美味しい。

<世界遺産> 文化遺産が9件。13か所の遺産を申請中。

ザルツブルグ市街の歴史地区、ウィーンのシェーンブルグ宮殿、塩の町ハルシュタットは、かつては湖を船で行くのみで隔絶された町、それだけに自然と歴史が残っている。ダッハシュタインはロープウェイからの眺望が美しい。世界で一番古い登山鉄道がある。鉄道の技術は世界一。日本の鉄道もオーストリアの技術によるところが大きい。ロープウェイもオーストリア製で技術の力を蓄積している。第二の都市グラーツにあるエッゲンベルク城では、最近秀吉の時代の「17世紀初頭の大坂城と城下を描いた大阪図屏風」が発見された。その時代の資料としては貴重なもの。ドナウ川のワッハ



渓谷は葡萄畑、そしてお酒、ジャムに加工する杏の生産地。ウィーン歴史地区 など...

<無形文化遺産> 特に「乗馬学校の馬術」ハプスブルグ家は、スペインも領土とした時代からの軍馬を育てた歴史があり馬術が遺産となっている。



・・・質問タイム・・・参加者からの質問に、ていねいにお答えくださいました。

＜国旗＞ 十字軍遠征時、敵の返り血で赤く染まったオーストリア大公の白い軍服がベルトの部分だけ白く残ったという故事に由来している。国旗のほかに政府旗があり、それには、自由の象徴として、切れた鎖を足につけた鷲の図柄の国章が中央に配されている。

＜教育制度＞ 義務教育は8年。4年の初等教育、その後4年で将来の進路として、手に技術をつける訓練校、あるいは大学などの選択をする。

＜共和制＞ 貴族制は残っていない、貴族の苗字などもほとんど無い。

＜産業＞ 第三次産業、特に観光が主。

＜エネルギー＞ 治水を兼ねてのダムによる水力発電が大きい。「再生可能エネルギー」はヨーロッパでダントツの量を誇る。国内の全体エネルギーの内の67%を再生で占め、EU平均の17%を大きく上回っている。材木からでるバイオマス発電も盛ん。原子力発電所は70年代に建設されたが、国民投票で僅差を経て一度も稼働させていない。ただ近隣の国での発電所は多数あり、国民としての気がかりなことは残っている。

＜中立国＞ 他国同士の戦いには中立だが、国を守るという「兵役（6か月）」がある。9か月の民間奉仕で振り替えることができる。

＜人口＞ 少子・高齢化が進んでいる、今日の移民政策をどのように考えるかが課題。



・・・追記・・・ オーストリア共和国のホームページ：<http://austrianculture.jp/>

（会員開発委員会担当常任理事 小林敬幸）

書道体験教室 テンプル大学 ジャパンキャンパス

日時 2017年1月18日（水）17：45～19：45

会場 テンプル大学麻布校 206 及び 207 号室

講師 金田 翠夢先生（毎日書道展会員）



当協会の法人会員であるテンプル大学から要望を受け、テンプル大学麻布校の教室で、書道体験教室を開催しました。初めての試みでしたが大学からも学生さんがたからも喜んでいただくことができ、無事終了しました。

- 内容
- 1)書道の歴史や墨、筆、硯、紙などの説明。
 - 2)手本を見ながら練習。
 - 3)色紙や長方形の半紙に好きな字を清書する。



参加者の感想（アンケート）

＊大変楽しかった。 ＊難しかった。 ＊書道が好きになった。
通訳は 棚橋常任理事が協力してくださいました。

担当者からのコメント 短時間の練習にもかかわらず、学生さんたちの上達ぶりに驚きました。最後に、好きな字を色紙や長方形の半紙に書きました。日本のいい思い出になれることでしょう。

（文化体験教室委員会担当常任理事 平方一代）

事務局便り

【ようこそ 新入会員】 個人会員：鈴木 公子さん

【今後の事業予定】（詳細は別途、チラシやホームページでご案内します）

☆4月19日(水)～初級英会話講座、毎水曜日、18:30～20:30、コース全14回（予定）

講師：マーク・マードック先生 会場：港区立麻布区民センター

☆4月19日(水)～初中級英語講座、毎水曜日、18:30～20:30、コース全14回（予定）

講師：笠原三郎先生 会場：港区立生涯学習センター

☆4月26日(水) 18:30～20:30 港ユネスコ協会 2017年度総会

会場：港区立生涯学習センター305号室

☆7月1日(土) 13:30～16:00 ゆかた着付け体験教室

会場：港区立生涯学習センター203号室 参加費：500円

【ご寄付、ご寄贈品など。ご協力ありがとうございました。】

(A) 日本ユネスコ協会連盟の東日本大震災子ども支援募金 合計 33,740円

★ 7月13日(水) 第1回国際理解講演会会場にて募金 4,700円

★10月14日(金) 第2回国際理解講演会会場にて募金 7,300円

★12月14日(水) 第3回国際理解講演会会場にて募金 5,000円

★10月8日～9日 みなと区民まつり（バザー売上追加分） 2,000円

★ 1月27日(金) シンポジウム会場にて募金 4,740円

(B) 日本ユネスコ協会連盟への書き損じはがきのご寄付 208枚

【ご協力のお願い】 常時受け付け中です。事務局までお願いいたします。

*日ユ協連・東日本大震災子ども支援募金

*ミンダナオ子ども図書館へ 寄贈品 衣料品（除毛織物）新品・中古品（洗濯済）寄付金（送料分）

港ユネスコ協会事務局 （火～金 10:30～17:00）

〒105-0004 東京都港区新橋 3-16-3 TEL 03(3434)2300 TEL・FAX 03(3434)2233

Eメール：info@minatounesco.jp ウェブサイト：<http://minato-unesco.jp>

編集後記

◆私事で恐縮だが、先日、誕生日を迎え、たくさんの人から Facebook や LINE でお祝いメッセージをいただいた。いくつになっても「おめでとう」は嬉しい。フリーで仕事をしていると、こんな風に気軽に簡単に連絡が取れるツールはありがたいが、「重要なことは会って話したい」そう思う私は、やはり昭和の人間かな。（小林真弓）

◆文化体験教室委員会が毎年書道教室を開催している。昨年末近くに麻布のテンプル大学から依頼があり、年明け早々に同学内で書初めイベントを開催した。MUA として初めての試みであったが、60人近い外国籍の学生さんが書初めを楽しみ日本の文化に触れた。書道の先生はじめ関係者の多大なご尽力に感謝。（須田康司）

◆先日、移民受け入れ先進国とされるスウェーデンにおける実態につき、異なる切り口から現地調査をしてきた大学生グループによるプレゼンを見る機会があった。自分たちの仮説と現地で得られたデータとを突き合わせ、分析から導き出された検証結果を堂々と発表する若者たちの態度に、次世代への大いなる信頼感が湧いてきた。（棚橋征一）

◆広い年代から高い評価と人気を得ているという、アニメ映画「この世界の片隅に」を見た。舞台は、戦時下の軍港の街・広島県呉市に住む普通の女性の暮らし。平和時には考えられない暗く重く悲しい出来事が日常的に起こる。丁寧に描かれた画像のぬくもりと、主人公の人柄、語り口、ユーモアに救われる思いであった。ぜひ、多くの人々に見ていただきたい。（高井光子）